

## 調査報告書

- 1 とき：2012年10月23日
- 2 行先：千種台保育園
- 3 参加者：わしの恵子、岡田ゆき子、政務調査補助員（浜田）
- 4 主な内容
  - ・ 請願第16号「千種台保育園を有効活用し、乳児を含む待機児童の受け入れを行うこと」が、26日の子ども教育委員会で採決されます。そこで、千種台保育園を視察調査しました。
  - ・ 同園は1965年に名古屋初の乳児保育園として開園されましたが、名古屋市整備計画により、2009年度より、0歳児から年度ごとに受け入れを停止し、2013年度をもって、閉園の予定です。空いた教室は、子育て支援の「どんぐりルーム」として開放しています。しかし、公立保育園を廃止・民営化することが、千種区の179人の待機児童解消になるとは考えられません。
  - ・ 園は老朽化がひどく、排水不良でトイレの下水があふれたり、玄関のドアが反動をつけないと開かなかったり、床がへこんでいたりしています。園長は「25年までなんとかもたせれば、と最低限の修理しかしていない」と言います。
  - ・ 地下鉄から5分と利便性がよく、静かで緑が多く、敷地内に雑木林があり、木の実や昆虫をとることのできる良い環境の中にあります。この日も採ってきた「しいの実ケーキ」を子どもたちが実習でつくっていました。米の収穫もするそうです。
  - ・ こういった、保育園は残さなければいけないと強く思いました。
  - ・ 公立保育園のあり方と民間移管について、見直す必要があると思います